

東奥日報

2017年(平成29年)3月12日 木曜日 (24)

災害 市民できることは

八工大と市がフォーラム



震災からの復興状況や防災に関する研究成果などについて講演、発表があったフォーラム

八戸工業大と八戸市は11日、同市福祉公民館で「防災フォーラム」を開いた。市民ら約110人が講演や研究発表を通じ、東日本大震災からの復興や大規模風

水害の減災の取り組みに理解を深めた。

長谷川明学長と小林眞市

長のあいさつに続き、市防

災危機管理課の担当者が

「津波防災」をテーマに講

演した。担当者は復興・防

災の市の取り組みが進んで

いることを説明した上で、

自らの身を自らの努力で守

る「自助」や、地域や近隣

の人が協力しあう「共助」

など市民による備えの重要

性を強調。「いざというと

きに慌てないよう災害時の

行動をイメージして訓練し

てほしい」と訴えた。

同大土木建築工学科の金

子賢治教授は、津波エネル

ギーを低減する防潮堤の開

発に向けた研究成果を発

表。ほかに馬淵川の水害対

策、災害の記憶を継承する

教育、震災時の記録のデジ

タルアーカイフ化などに関

する講演・発表があった。大

震災発生時刻の午後2時46

分には全員で黙とうした。

同大は2011年4月に

防災技術社会システム研究

センターを設立し、研究や

教育、地域支援に取り組ん

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」